



特定非営利活動法人

平成22年 春号 NO.42



<http://nepal-mika.jp>

saito@westeast.co.jp

ネパール・ミカの会

平成22年4月17日発行 194-0035東京都町田市忠生2-5-36 tel:042-791-0602



誠実、まじめ、素直なミカの会

第13次ネパール教育支援の旅

理事長 齋藤謹也

副理事長 大谷 安宏



会員の皆様、いろいろ身体の事でご心配をかけ、申し訳ありません。ようやく、少しずつ体調がもどってきたように思われます。

さて、この冬から春にかけて、役員の皆様の頑張りにより、第13次教育支援の旅も無事円成し、また新たな小学校が支援校として、仲間に加わりました。また、青沼副理事長が日ネ協会の総会に出席して、議事録署名人として会長より依頼されました。そして4月3日ネパール大使が築田寺桜の集いに参加されるなど、ひとつひとつ着実にミカの会の誠実さが認められて信頼が高まっています。

これも、皆様の見返りを求めない布施のありようのおかげであると思います。

平成22年度、またラマ理事を迎えて、総会にむけて実績を積み上げてまいりましょう。

第13次ネパール教育支援の旅は穂坂光紀理事の父上穂坂 佳伸氏によりティナウ小学校の建設資金提供頂いていたが、誠に残念ながら完成を待たずして昨年3月急逝された。穂坂家を代表して奥さまの桂子さんと光紀さんに参加頂き、釈迦の生誕地ルンビニでのご供養とティナウ小学校完成落成式に参加頂くことになった。また、理事長は諸般の事情により参加出来ず参加者6名の旅であったが、ほぼ計画通りにイベントを進める有意義な旅であった。

期間 2010年3月16日(火)~3月25日(木)

10日間

参加者 和田 寧人 和田 泰子 穂坂 桂子
穂坂 光紀 高山 勝太郎 大谷 安宏

3月16日(火) 町田~成田~バンコク

今村、青沼さんに見送られ高山会員と2人でバスに乗り込む。チョット寂しい出発だ。

今回の完成落成式のティナウ小学校の建設資金提供の穂坂家母子は小田原から出向き空港で待ち合わせ。和田夫妻は8日にネパール入りトレッキング後、4人をカトマンドゥで出迎えてくれる。成田~バンコク、バンコク~カトマンドゥ共最後尾の余裕の2人掛座席を確保。本格的な日本のチソビヤーで旅の安全を願い結団式。定刻やや遅れフライト。前線の



(上記写真2点は4月3日築田寺へネパール大使が観桜会へ来られた際のものです。)

影響が可なり揺れが続く。

バンコクは 31 と暑くメガネが直ぐに曇る。ホテルの出迎えはなく、係員に電話を依頼し5時半ホテル PREMIER AMARANTH 着。早速、3人はホテル周辺の散策。穂坂桂子さんは積極的で明るい母さんだ。タイ料理、中華、ベジタリアン、イタリアンなど思い思いの夕食。

3月17日(水)

バンコク～カトマンドゥ～バイラワ～ルンビニ



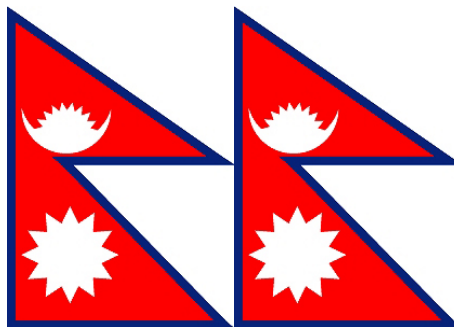
朝食はバイキングで定刻フライト、見慣れたカトマンドゥ着。タラップ下に笑顔のスリザナさんが両手を振り迎えてくれる。すっかり日焼けした和田夫妻、ラマさんの出迎えを受け国内線ターミナルレストランで休息。加藤さんに無事カトマンドゥ到着を報告。定刻フライト、雲上にヒマラヤの峰々を望み、やがて乾いた薄茶色のタライの大地が広がる。バイラワはカトマンドゥより蒸暑く 30 を超えているようだ。明日からの畦道での各学校訪問に備えて小型の車2台に分乗。街道沿いには工場建設に需要が増し、レンガ組合、コンクリート・ミキサー車組合の組織化や運搬車の区間規制など建設資材の高騰が進んでいるとのこと。中間調査では満室で宿泊できなかった久し振りの法華ホテル受付嬢が「山下さんはお元気？」
10 校の各校長との夕食懇談会で理事長欠席理由やティナウ校落成について紹介。理事長の一日も早い回復を祈念する旨と今までのような建設要望、要請はなく一様に会の支援によりルンビニ地区での教育レベルは向上したことの感謝の挨拶が多い。夕食後ラマさんの部屋で穂坂氏のヘネシーとバンコクで仕入れたバレンタインでルンビニ入りを祝して和やかな歓談遅くまで続く。1日 12 時間の停電で待望の大浴場は休止。クーラーなしのルンビニは寝苦しい。明日から慌しい支援の旅が始まる。

3月18日(木) ルンビニ

6時30分ルンビニ公園へ。今回落成のティナウ小学校建設資金を提供頂き、残念にも落成を待たずに急逝された穂坂 佳伸氏のご供養を執り行うこととした。アショカ王柱前にシートが敷かれ3人の現地僧侶により幾つもの灯明が灯り、香が焚かれ、故人の写真には色とりどりの花びらが降り掛けられ、独特の旋律の読経は周囲に厳肅な空気が漂う。折しも朝もやの中を太陽が昇り始め、故人の冥福を祈る人たちを徐々に赤く染めていく。聖なる地が宇宙と一体となる。祈祷後チベット寺院に布施。毎朝故人の供養をするという。供養の済ませた穂坂母子にどこか安堵と心の満たされた表情が伺えた。



朝食後ティナウ小学校落成贈呈式に向かう。集落から学校に向かう道路わきの椰子に似た木の幹に傷をつけるとアルコール分を含む樹液を分泌して飲めるという。確かにどの木にも多くの傷が見受けられる。一度試してみたい。子ども達からレイの大歓迎。水はけの関係で基礎を高めにした真新しい3教室は朝日に眩しい。穂坂親子の紹介と理事長不参加の挨拶に続いて、和田さんの理事長挨拶文の代読、穂坂家挨拶。ミカの会、穂坂家に感謝状を授かる。そしてテープカットに大きな拍手と歓声。四つ葉会の布袋、淵野辺東小学校の生徒たちからのエンピツ、ミカの会ノートを一人ひとりに手渡す。中間調査で訪れたシリ シタルダ バール ニケタン ケルダ パンデ小中校校長及びティナウ校の北東のジャナ ジョティー校校長から建設要請される。





次期建設支援校ビバルハワ校の理事長が昨年末コブラに嘔まれ亡くなったことをラマ氏から聞く。中間調査でぬかるみをラマさんと二人で歩いた道は今や和田さん等の乗る車が見えぬ程の物凄いホコリ、クーラー無しの車は暑く大きく左右に揺れ続ける。ひろしま祈りの石(財)の助成決定により3教室の建設資金の目処はつき、総会にて正式決定を告げ、計画位置に建設することを確認した。

ヤナトラハア校は校門も整備されていたが校庭一面紙くずだらけに散らかっている。10周年記念運動会の際に会員指導で生徒等皆での清掃はどうなったのか? 図書支援は前回の路上での贈呈式に引き続き2回目の62冊を寄贈。この時期試験期間で生徒等との触れ合いは出来なかったが、校長に教員指導の清掃活動の徹底を要望する。2台の車は凄いホコリを巻き上げながらシタルダ小学校へ。この道もぬかるみを歩いた道だ。

70歳の理事長が出迎えてくれる。試験中の教室を巡るがどこも暗く狭い。2~3年計画で校舎建設に向けて「シタルダ募金」の活動開始を告げ建設予定位置を検討。井戸側に現校舎と並行とする。ラマさんも初めてのあぜ道を通りアディアリ小学校で90冊の図書寄贈、試験期間で生徒の居ない図書室はきちんと整理されている。

マズワニ高校図書室はガラス窓も入り、机、椅子、書棚も整い、床もクロス仕上げされている。図書62冊を寄贈。校長は挨拶で支援によりここがルンビニで一番の学区になったと感謝の意を述べた。テスト中であるがエンピツのプレゼント。違う学年を隣どうしに座らせるテストのやり方は興味ぶかい。

高校裏手から民芸村へ。民芸センターは経営が成り立たず閉鎖。家ごとに籠などを編む姿は今は見うけられない。会独自のデザインを委託する企画もあったが実現せずにチョット残念だ。しかしこの集落の人々は明るく笑顔をみせ、子ども達は無邪気で元気だ。

時期的に満天の星ではないがオリオン、おおくま座など望められる。

3月19日(金) ルンビニ~プトワール~タンセン

朝食前穂坂、ラマさんルンビニ公園へサイクリング。残りは日本山妙法寺へゆっくりと散策。車で出掛ける佐藤上人と逢う。所用でポカラに向かうとのこと。ほぼ完成近い笠井ホテル視察。法華ホテルマネージャーから今晚宿泊の日本人グループがシタルダ小学校に6教室建設の為に打合せに来るとの情報。昨日学校からはこの件に関して一言も無かったことからラマさんが情報収集をすることとする。支援対象校として中間調査で訪問の空港近くのシタルダケダルパンデ校を視察するか協議の結果、今後の状況をみて対応することとした。グルワニマイ校に図書90冊寄贈。図書館の時計は電池交換しても直ぐに止まることから、ラマ氏がインドに赴き修理し、ティナウ校寄贈の時計を合わせて購入する。

今日からポカラまでの移動はクーラー付きのワゴン車で快適にタンセンへ。モホン女子校へ図書贈呈101冊。他の学校は既に直送済み。待望のヒマラヤの峰々は望めずダンパスに期待しホテルにて休息後タンセンの町を散策。懐かしい造りの建物も近代的に立替えられ、ATMや旅行代理店など時の流れを感じる。

ナグロレストラン前にテーブルを備える人たちの中に元セン小学校校長の懐かしい顔に出会う。70日後に迫る新憲法早期制定を確実にするため西ネパールから東ネパールへ35人のバイクよるPR隊の歓迎式とのこと。



夕食懇談会には6校14名の懐かしい先生方が集い、永い間の図書支援はタンセンにとって大きな成果であり、今後も継続を期待するとの挨拶。今年の4月から学制が改正され1年~8年を小学校9年~12年を高校とする。この制度が実施されると10+2が困るとサイエンス校校長が訴える。和田夫妻の「レッスンフィリー」の合唱と高山氏の「さくら さくら」の独唱と芭蕉の句の紹介に文学者の元トリブバン大学学長から蛙が池に飛び込む句を知っているなど和やかな一時だった。殆どの先生方はアルコールを飲まず



にジュースかミネラルウォーター。元の学長はウイスキーをよく飲んでいたな～あ。

3月20日(土) タンセン～ポカラ

早起きすれどもうす曇でヒマラヤは望めず。ポカラへの長距離に8時ホテルスタートする。延々山道を6時間。水不足で迫力のないデビットフォールはパスして遅い昼食イタリアン店。今夜の宿はクリシュナ・美江夫妻経営の空ゲストハウスは3階建て屋上からはアンナプルナ、マチャプチャレがうっすらと望める。買い物帰りバツリと坂さんに出会う。親が刑に服す子ども達に絵画指導すること。いつもながら坂さんの想いと行動力には敬服する。宿泊はペワ湖向こう岸のゲストハウス予約済みとのこと。宿でポカラ産白ワイン試すが若すぎコクが無い。ポカラ近郊でJICA指導のコーヒーも販売されている。夕食後ベランダで西に傾く弓張り月を眺めながら懇談。

3月21日(日) ポカラ

20日コイララ首相死去の報せ。昨日ラマさんが駆け回り確保した登りに強い車でダンパスへ。霞んで見えるマチャプチャレも登ればと期待する。ダンパスへの上り口を更に進み、急な傾斜の悪道が続き、遂にストップ。ドライバーは河原の大きな幾つも大石を後部座席に積み込む。男衆も手伝い見事発進。やがて視界が開けて眼前にアンナプルナ、マチャプチャレの峰々が広がり感激の一時。ダウラギリビューホテルで休息予定が数十名の瞑想グループによる貸切り、やや下りホテル さくらでティータイム。



ベア湖畔カレーハウスで昼食後各自散策とする。スケッチポイントを求めて湖畔をあちこち歩き回るのが暑く早々に引き上げる。

何度も見ている対岸の山上の日本寺で夕日を眺めようと出掛ける。眼下に湖を望みポカラを一望できる絶景。偶然、山道を登ってくる坂さん発見再会ティータイム。やがて雷鳴、夕立。夕食にチベタン料理、食欲旺盛の高山さんの箸が進まない。部屋でラマさんと招聘状、滞在日程、ビバルハワ校建設計画書などで打合せ。

3月22日(月) ポカラ～カトマンドゥ

9時30分フライト。相も変わらず騒然としたカトマンドゥ。バイクがやたらに増えた感じ。和田さんのトレッキング荷物を引き取りにサンセットビューに立ち寄り、JICAの武さんと連絡アポイントをとる。

パドゥマカニヤ女子校も試験中。校長は今までNo.2の女性教員が副校長として代行、難しい背景があるようだ。理事長より依頼の雪山童子基金の支給についてはクラス替え後の指名となるため5月に先送りとなる。図書32冊寄贈。

ポダナートのレストランでドマさん、ヤンチェンちゃんと昼食。よちよち歩きの愛くるしいヤンチェンちゃんに久し振りのラマパパはメロメロ。日本の童謡も歌い始めたとのこと。

午後高山氏ホテルで休養。タメルで秋のイベント向けに民芸品の大量仕入れに和田さん奔走。タメルの日本料理「古都」は閉鎖、「ふる里」で夕食。高山氏の体調心配なし。ノースフィールド・カフェで「ガンダルバ」演奏に一時を過ごしHパイシャリへ。

3月23日(火) カトマンドゥ

5時30分穂坂親子、高山氏マウンテンフライトへ。空港使用料込み16000円。8時30分ロビー集合時間を過ぎてもフライト組は帰

ってこない。JICA 武氏との約束時間も気になる。霧の関係で国際便も飛べぬ状況に3時間遅れでフライト、念願のエベレストを満喫して11時帰着。飛んでくれてよかった。

パタン博物館中庭レストランで JICA 武徹氏と昼食を摂りながら面談。赴任4カ月で本格活動はこれからであると言うがネパールの実情から電力、水道、道路のインフラの整備支援が不可欠であるが、新政憲法が未制定の状況に活動が進められないと言う。



校舎建設には資材のみを提供している。ルンビニ地区の実情視察と今後の情報提供と協力を要請。奥方宛にカメラ、書類を託される。

パタン・ダルバール広場そして階段でのスワヤンブナート観光。残念ながら日本語学院訪問は時間切れ。新しくできた王宮近くのレストランでネパール舞踊とロキシーでネパール最後の夕食。穂坂氏とホテル 1F カウンターバーで旅を顧みての一杯また一杯とチョッと飲み過ぎてお休み。

3月24日(水) カトマンドゥ～バンコク～
ゆっくりとホテルを発ち空港でスリジャナさんの笑顔で迎えられて搭乗までロビーで歓談。

帰り便も最後尾席でのんびりと雲上の峰々を眺める。

今回の支援の旅は小人数ながらも当初のスケジュールをほぼ計画通りに進行でき、また支援の旅のあり方や具体的提案など話合う機会の持てたことにラマさんと参加した皆さんの協力に感謝。

バンコク空港にてマッサージ、買い物など思い思いの自由行動ののち機上へ。帰国後のあれこれ頭をよぎるが長旅の疲れかやがて熟睡。

3月25日(木) ~成田~町田
定刻成田着。穂坂親子は電車で帰宅。空港近くに駐車していた和田さんの車で自宅まで。お世話になりました。

今回の旅行中の話題、提案

- ・支援の旅の主旨を参加者への徹底。
- ・ルンビニ地区各校への清掃活動
レンガ製ゴミ箱の設置
- ・生徒との交流 簡単な日本語指導 名前 挨拶 スポーツ
- ・ポカラコーヒー契約販売
- ・支援の旅 中間調査を支援の旅に変え年2回

ルンビニ公園での父の供養と ティナウ小学校の落成式

穂坂 光紀



第13回ネパール・ミカの会教育支援の旅。今回は母と一緒に参加しましたが、僕と母にとって忘れることのできない最高の旅となりました。

今回の支援の旅に参加することとなったきっかけは、2年半前に僕が参加したミカの会の中間調査です。中間調査を終えネパールから帰国した僕は両親と食事をしながらネパールの現状や支援の必要性などを話しました。それからしばらくして父が「ネパールの子供たちの役に立てば」とミカの会に校舎建設資金を寄付することとなりました。そのお金は理事会、総会を経てティナウ小学校という2教室しかない学校の3教室増設に使うことが決まりました。その話を父にしたとき「65歳くらいになって商売を息子(僕の兄)に譲ったら、いつか見に行きたい」と言っていました。

その願いも叶わず平成21年3月8日、事故により父は60歳で帰らぬ人となりました。何をしてもいつも一緒だった両親なので父を失った母の心の空白を埋めることはそう簡単にできることはありません。そんな時に声をかけて頂いたのが第13回教育支援の旅、ティナウ小学校の落成式に母と一緒に参加しませんかとお誘いでした。当初の日程が確定申告期間中だったため僕は参加できないだろうと思っていましたが、母は参加したいとの事だったので、無



理を言って旅行日程を確定申告終了後に変更していただき、僕も参加することとなりました。

ルンビニ 2 日目、今回参加した母に対するミカの会の方々の配慮により朝日が昇るルンビニ公園内のマヤ聖堂の前で 3 名の僧侶の方に父の供養をして頂きました。ルンビニというお釈迦さまの生誕地で父の一周忌にネパールのお坊さんにお経を読んでもらえるなんて本当に感無量で決して忘れることが出来ない思い出となりました。

その日の午前中に今回の旅の目的の 1 つであるティナウ小学校の落成式に向かいました。ティナウ小学校の子供たちだけでなく、村の関係者の方々も含めて多くの人たちの歓迎を受け、今回支援の旅に参加して本当に良かったと思いました。話を聞けばこのティナウ小学校だけでも生徒数が 300 名を超え、未就学の子供たちも含めればこの地域だけで 500 名近い子供たちがいるとのこと。それが今までたった 2 つの教室で勉強していたという事実。そしてこのような学校がルンビニ公園周辺にはまだたくさんあるということを知ると共に、ミカの会が 10 年以上に渡って行ってきた支援がどれだけ多くの子供たちの笑顔につながっているかを改めて実感しました。

今回の教育支援の旅で本当に良かったと思うことは、スケジュールにゆとりがあったので全員が無理なく、そして体調も崩すことなく支援の旅を終えることができたということ。そしてラマさんを含め、大谷さん、和田さん夫妻、高山さんたちとルンビニやタンセン、ポカラ、カトマンズで昼食や夕食をとりながらこれからのミカの会の支援の方向性やもっと会を盛り上げていくためにはどうしたらいいのかなどをゆっくり話し合うことができたことです。いつもはラマさんからの報告を受けて例会や理事会で話し合いをしますが、現地ですぐに見て、その場でいろいろと議論をすることはとても新鮮だったし、活発な話し合いができて良かったと思います。

最後になりますが、今回の教育支援の旅は僕自身にとっても特別な思い出になりましたし、それ以上

にミカの会が行っている活動は確実に大きな成果に結びついているとともにネパールの子供たちの輝かしい未来に貢献しているという確証が持てた旅行になりました。これからもミカに会の一員として微力ながらも役に立てたら良いなあと思っています。

初めてのネパール

穂坂 桂子



不安と期待を胸に、今回ミカの会の教育支援の旅に特別参加させていただきました。初めて訪れたネパールの地でたくさんの人たちと出会うことができ、目に映るものひとつひとつが言葉では表しきれない驚きであり、感動でした。

特にルンビニのティナウ小学校の落成式では子供たちのキラキラと輝く瞳を見つけ、主人の想いとあいまって、ここに来て本当に良かったなあと思う反面、子供たちを取り巻く生活の厳しい現状にふれ、少々やりきれなさを感じました。

この学校だけではなく、近くの村の中を歩いてもまるで時が止まったかのようなのどかさ懐かしい風景が広がり、ミカの会の皆さんの活動の原点らしきものを見た気がしました。

マヤ聖堂では早朝に主人の供養もしていただき、私たち家族にとって忘れる事のできない、この上ない感動でした。

他にもいろいろな学校と観光地も見学させていただき、たくさんの思い出を作ることができました。これもご一緒下さいました大谷さん、和田さんご夫妻、高山さんと現地で活動して下さいましたラマさん、スリジャナさんのおかげです。本当にありがとうございます。

体調も崩さずに皆さんと共に無事帰国出来た事を心より感謝したいと思います。

ネパール教育支援の旅に参加して

高山勝太郎



今回第13次の教育支援の旅に参加させて頂き自身の生涯で忘れることが出来ない旅だと私は確信を致します。つきましては役員の皆様を始めとして「中間調査」等等、会員の皆様にも感謝申し上げます。

さて、私自身今回の旅行で2回行った事になりますが、私自身その現実には強力なインパクトには言葉にならなかったように思います。従って私自身その現実から遠く離れていたように思います。しかし私自身もう一度見直してみようと思いました。

とても恥ずかしいが私が勤めている会社が忙しい為に皆さんと一緒にネパール教育支援の旅に行く為に積極的に会に参加して共有すべき情報等、又ミカの会のボランティアに参加して、日頃からそのボランティアの事について事前に触れて置くべきだと痛感しましたがそれが残念に思えてなりません。私自身がとても興味を持つのは現地を旅して…

ネパール連邦民主共和国について

今現在は三権分立はどうしているのでしょうか、経済状況と各地域の行政面又個別的には市、町、村等住民に対する政策及び子供達の教育面などその現状などを知りたいと思います。

ミカの会の活動について

ネパールの教育支援活動を目的として1997年7月に設立し、校舎建設支援、図書支援、制服支援、計測器支援、奨学金制度など継続して実施している。私はその支援実績は日本の国としても出来ない素晴らしい事だと思います。おそらく他は例を見ないと思います。

今後の支援活動について

13年間のルンビニ地区での不足する校舎の建設支援に就学率の伸びがみられるとの事、特に女子の

就学率の向上は著しいとの事、新設中学校、高等学校の開校により地域の進学意欲向上など期待されるとの事。

イベントについて

町田、相模原、横浜他イベントに参加、ネパール民芸品及び食品、リサイクル品販売等活動しているとの事。私自身ミカの会の活動状況に触れて素晴らしいと思います。しかし私には一つのハンディーがあります。それは私自身に残された時間が限られた時間しかないと思います。もっと私に年令的な時間があれば私の頭をよぎります。私が出る場所はあるのでしょうか？

マウンテンフライトについて

私はこのエベレスト(8848m)を見て、人を引きよせない山そして周りを囲む山々、非常に感動しました。

ネパールに出会って、16年

和田泰子



ルンビニ公園のマヤ聖堂裏手アショカ王の石柱の前で、昇って行く太陽の光を額に感じながら、私は3人のネパール人僧侶が唱和する読経の声をミカの会の仲間と共に、目を閉じて聴いていた。声は座した体に静かに沁みこんでくる。桂子さんの気持ちを思いながら、その思いを16年前の自分の心に重ね、涙があふれた。ティナウ小のために大きな志を残された穂坂佳伸氏、奥様の桂子さん、息子の光紀さん、3人揃ってティナウ小の落成式に臨むことが出来たならどんなに良かったことか…。でも私の前に座しているのは、桂子さんと光紀さん二人、そして佳伸氏の写真。深い深い悲しみは、永い時間の経過の中で、薄皮をはくように少しずつ少しずつ薄れていくのだと思う。

私がネパールに「出会ってしまった」のは16年前。山岳カメラマンだった弟(大石一馬)の死が、私をネパールに出会わせた。彼は33歳から亡くなる44歳

「ベン」の向うに「ネパール」をみた

和田寧人

まで、長い時には1年もネパールに滞在し、ヒマラヤを撮り続けていた。弟のポジに写し取られたヒマラヤを自分の目で見てみたくて、1994年から私のネパール通いが始まった。初めの頃はネパールに行く度に、ローカル飛行場の人ごみの中に、アッサン通りの雑踏とほこりの中に、弟がいるような気がして探している自分がいた。重く苦しかった。ネパールと係わりを持ってから、たくさんの出会いがあり'97年、ネパール・ミカの会と出会って、教育支援の旅にも参加させていただくこととなった。そして今回の旅は17回目。いつの間にかこんなに永い時が経っていた。ミカの会の旅には、皆さまのお世話になりながら、母もほとんど一緒に参加していた。今回は来られなかったが、母が92歳になるまでネパールの旅を共有できたことに感謝し、幸せを感じている。弟は、素晴らしい出会いや仲間、思い出、生きがい等、たくさんのプレゼントを残してくれた。

第13次教育支援の旅の最大の目的はティナウ小の落成式参加。やしの樹に似た木々の点在する明るい校庭に白い校舎が完成していた。校長先生のお礼の挨拶、穂坂さん母子の挨拶、今回参加できなかった理事長の挨拶文代読等の式典の後、校舎のテープカット。私や夫まで、カットの荣誉をいただいた。それから生徒の一人一人に心を込めて、四つ葉会の布袋と鉛筆、ノートを手渡した。本当に心に深く刻まれる落成式だった。終わった後、隣接の村の中を子供たちや村の人たちとふれあいながら、ゆっくり散策できたこともうれしかった。



今回の旅もたくさんの目的をこなしながら、ガタガタのすごい土誇りの道を何度も走るなど、しんどい思いもしたが、久しぶりのポカラ訪問、旧知のクリシュナご夫妻の空ゲストハウスに宿泊し、ゆったりと心地よく過ごせたこと等うれしいことが沢山あった。いっぱい笑い、泣き、よくおしゃべりし(ミカの会のこれから等について)飲み、素晴らしい旅だった。いつものように何から何まで段取りし、見守って下さったラマさんに感謝!!



誰でもそうであろうが、私にとって異国に向かう時に最も気になり、心配なことは「ベン」に関するもろもろである。食事が変わる、水もミネラルウォーターが湯沸ししか駄目、その中で楽しむ処方を学ばねばならない。

そもそも「ベン」は人間にとって欠かせない「食する」の結果発生する必要悪?の感があるが、これによって健康、不健康のバロメーターになるという事実もあり見過ごせないものでもある。

古来、農家(百姓)にとって貴重な肥料にもなっていたわけで現在も同様な国は沢山あるだろう。とりわけ牛、豚、やぎ、にわとり等家畜のふんは肥料に、燃料に、漆喰の代わりにもと活用範囲は広くとても重要な役割を人間生活に果たしている。今回訪れたネパールという国もその一つである。

「ベン」は「勉」に通ず、つまり「ベン」から学ぶことは多いのである。人間が生まれ育つ際これが認識され、自ら出来るようになることは成長過程における大きな節目であって、赤ん坊から子供へジャンプ・アップすることとなり、その後人類いや哺乳類にとって一生付き合っていかなければならない大切な行事なのである。

今回のネパール行はリタイア後で6回目となる。ミカの会支援の旅、トレッキング、単なる観光と三つの目的で訪れている。今年は前半にトレッキング、後半はミカの会支援の旅に合流させてもらい支援学校を廻って来た。

トレッキングで「ベン」には神経を使う。子供の頃のようにいわゆる「フンギリが良い」状態に無いからだ、何回かになったり大量のペーパーを使わないと気になり、水洗やシャワーがないと通じずというほどの本当に墮落した(ネパールの人から見れば)生活に慣れてしまっている、情けない話である。人間本来の機能がマヒしてしまっているのである。

今回訪れたチョルドン・ピークへのトレッキングはロールワリン山群に属し、東側のエベレスト(ネパール名:サガルマータ)のあるクーンブ山群と西側のランタン山群の間にある場所を歩いてきた。カトマンズからバスで10時間ほどの位置なのに、トレッカーが少なく途中ロッジ等がまったく無いため、テント・食料・炊事道具の全てをカトマンズから運び込んだ。同行はガイド1名、コック1名、ポーター兼キッチンボーイ5名を頼んでの山行であった。テントは食テ、トイレテ、と我々夫婦用のドームテ、そしてガイドとコック用のテントの計4張を持ち込んでくれた。特にトイレテを張ってくれたことは旅を快適なものにしてくれた。夜は早い、夕食が終われば暗い中であることは無い、話も尽きれば寝るだけである。早いと19時にはシュラフにもぐってしまう。午前0時付近には目が覚めてしまい、もぞもぞとシュラフを抜け出す必要に迫られる。トイレテに向かうのは面倒くさいが、真っ暗の中に立つと素晴らしい驚きが待っている。満天の星!このすごさに寒さも、辛さも吹き飛んでただ感嘆、これがテント生活の醍醐味である。

トイレテは我々お客さん用であり、ガイド以下ポーター達は使用しない。彼らはいったい何時、何処で?と考えてしまう。時々それらしい風でひとり遠くへ行く姿が見られたが彼らは巧妙に処理して悟らせなかった。トイレテは背の高いテントで中央に溝を掘って使用する。撤去の際には埋め戻して土に返すわけで清潔感があり、落ち着ける場所であった。ロッジによっては掘って立て小屋に板が渡してあるだけの所があり、それに比べれば雲泥の差である。「ベン」を広辞苑で引くと「くつろぐこと、休むこと」の意味が載っている、トイレテはまさにぴったりの空間であった。

ネパールの人は食事に右手を使う、「ダルバートタルカリ」を右5本箸でダルもみんな混ぜ合わせて上手に食べる。スプーンで食べるより、より美味しく感じるそうである。しかし食べ終わっても手を洗ったり、拭いたりしていないのにいつの間にかさっぱりと綺麗にしているのは不思議なことである。そして左手は不浄の手、「ベン」を処理する手である。トイレでは水が置いてありこれで綺麗に洗うのであるが、慣れないこともありなかなか順応できないしトライしてもうまく出来なかった。いままで本当に紙を使わない文化であったと思うがトレッカーの増加によって最近のロッジ(知っているのはメインストリートの感のあるクーンブ山群だけだが)は水洗が増えてきて、使った紙はカン(桶)に入れておき別途焼却するという自然に配慮したやり方を取ってきていることは大変好ましい。

テント生活での重要な事は水の確保である。山頂付近でも水を探さねば泊まれず、やむを得ず停泊した場所でも水を探してポーター達はドッコを背負い

沢へ下っていく。そんなにまでして得た水の質までは問えないので、沸かしたタパニ(お湯)を飲み、火を通したものを食するわけであるが食器を洗う水や野菜を洗う水はそのままの水であり、水をそのまま口に入れないことは不可能である。よって徐々にダメージとなって行くのであるがコックの作る料理はうまい。コロッケからカツ、ピザ、そばと多彩であり、どうやって肉を何日も保存してきたのかとびっくりしながらもつい食べてしまう。そしていつもマイ ペット タンナ パヨ(私のお腹はポンポンです)と言ってしまふのであった。我ながら食に自製の出来ない意地汚い性分であることを再認識させられた。

今回はどっしりとしたガウリサンカール(7134m)の雄姿を間近に見られ、隣には8000m峰のシシャパンマそしてドルジェ・ラクパ、ランタン山群、マナスルと遠望でき、とてもラッキーなトレッキングであった。咲いていれば良いなと期待していた石楠花(ネパール名:ラリグラス)も純白からピンク、真紅に至るまでバラエティに富んだ色合いを楽しめた。おまけに桜草の群落、沢を埋め尽くすほどの大群落を目にすることにも恵まれ、体調も十分に維持が出来ほんとうにのんびりとした良いトレッキングであった。



ジリという街から車に乗っての帰り、途中の街道沿いで昼食となり、ネパール人がいつも食べるダルバートタルカリを注文しトイレを借りに裏へ回った。その囲いの無い土間に調理場があり、真っ黒なフキン(雑巾より黒い)で我々に出すステンレスのお皿を拭いていた。添える野菜もトイレで手を洗うポリタンクの水と共用にしているのを目撃してしまい大丈夫か?と思ったがエーイ!無事下山出来たのだからと食べてしまった。マトンの肉はおいしかったがやはり胃や腸にはマイナスで、後半の支援の旅に引きずってしまった。でも数日で調子を取り戻せたのも食べて直すという意地汚さが幸いしたのかもしれない。チベットかネパリーかと見られるほど日焼けした分、胃や腸も丈夫になったようだ。

トレッキングで大切にしたい貴重な水はネパールの

大いなる課題の一つである。水不足が特にカトマンズ盆地で深刻であり、大きなホテルでは競って井戸掘りをしている、年々深くなっていくだろうし何れ枯渇することは目に見えている。そして、慢性的な電力不足(停電時間が一日12時間にも達しているのは異常事態である)で暑い昼間冷蔵庫が使えず保存することが出来ない為、街の食堂では肉や卵料理は食べるな!とされている有様。三つ目が道路事情、大量のバイク(銀行が増えローンを使えば手に入る)ので年々増えているように感ずると中古よりも更に古いスズキの軽、タタのバス・トラックがひしめき合い、間に自転車と人が入れ乱れるのだから朝晩の渋滞はすさまじいほどである。

今もネパールは水、電気、道路と基本のインフラが全く整備されていない状況である(過去ずっと言われてきた言葉である)。政治が動かない、政治家や行政が機能しない分、人は政府・政治家を信用せず期待もしていないと感じられる。パタンの水場では周囲には観光客がいっぱいいる中でチョロチョロ出る水道にずらりと並んで待つ水汲みの人々の我慢強さを見ると、それぞれが節約し我慢して乗り切ってしまう逞しさを備えているように感じられた。

それでもネパールには未来・希望があると思う。支援の旅で出会ったルンピニの子供たちには支援の結果が如実に現れてきていると思う。今回の旅ではまだまだ期待されている箱物支援と共にソフト面で4S(学校での整理・整頓・清潔・清掃)の中でも特に清掃(ゴミ拾い)活動をネパールの教師を先頭に指導すべきといった会話が少なされた。これからの支援のあり方等を理事会・例会で議論し、若い会員のアイデアも大いに取り込んで新たな支援の旅が続くことを願っています。

「ベン」のことからだらだらと締まらない話になってしまったことお許し願います。支援の旅の詳細は他のメンバーの方にお任せいたすとして、百聞は一見にしかず!これからの支援の旅には一人でも多くの会員の方が参加し(参加できるようなプランも企画し)、ネパールを肌で感じていただける事を願っています。

参加者の皆様!

「ラマさんと行く箱根湯元温泉と箱根旧街道散策」

ネパール・ミカの会総会参加のため 5月12日にラマさんが来日されますので総会後の恒例の1泊親睦の旅を右記により実施しますのでご案内いたします。

日程及び行程の概略

日時: 5月17日(月)~18日(火)

集合: 5月17日小田急町田駅花屋前
9時45分集合(予定)

町田発 10時01分(はこね11号)~
小田原着10時45分に乗車(予定)

(町田~小田原間のロマンスカー指定券を幹事が一括購入し集合時配布しますが、乗車券は各自購入してください)

ホテル直行や別便利用の方は参加申込時に幹事へ申し出て下さい。

小田原駅着後昼食

宿泊: 5月17日(月)

伊東園ホテル箱根湯本(箱根湯本駅より徒歩20分)
足柄下郡箱根町湯元茶屋 95-1
TEL:0460-85-7461

夕食・宴会: 18時~20時 カラオケ室もあります。
自慢ののどもお聞かせ下さい。

観光: 5月18日(火)
箱根散策(場所未定)
15時~16時頃帰宅の途に...

費用概算: 12,000円
(自宅~箱根湯本間往復交通費及び18日昼食は各自負担)

申込: 4月30日までに幹事宛申し込んでください

幹事: 中野千恵子 042-773-3203
青沼義信 044-712-0364

事務局便り

町田中央公園さくら祭りの時は寒さで足踏みしていた桜も、相模原さくら祭りには満開になりました。2つのイベント(さくら祭り)が終わり、5月の総会の準備が始まりました。

イベント予定

5月 8日(土) 春季福祉バザー ぼっぼ町田にて
ネパール民芸品、リサイクル品の販売

5月15日(土) 2010年度通常総会
町田市民ホール第4会議室 午後5時半より

5月17日・18日 ラマさんと行く懇親ツアー

7月17日(土) 移動例会
町田市民フォーラム活動室A 午後3時より
(5時半より懇親会の予定)

編集後記

今回の会報は支援の旅特集となった為、原稿だけで7.5ページとなりました。8ページの会報とすると折角のネパールの写真が数点だけになってしまい、紙面の関係からページ数を増やすと10ページになり写真を多く添付することになります。そうすると会の財政厳しい折、インクを多く使用することで気になっていましたが、支援の旅はネパール・ミカの会にとって大きな事業であるため今回は写真使用で10ページとさせていただきます。(WESTEAST)